

日本キリスト教団
長崎銀屋町教会
『週報』

VOL. 127 NO. 51 2019年 3月 17日
受難節〈レント〉第2主日



【2018年度 聖句】「わたしは復活であり、命である」

ヨハネによる福音書 11章 25節

【2018年度 標語】「キリストの命を生きる」

～定期集会案内～

- | | | |
|---------------|----------|-----------|
| ○主日礼拝 | 日曜日 | 午前10時30分～ |
| ○教会学校 幼小科・中高科 | 日曜日 | 午前 9時30分～ |
| ○聖書研究・祈祷会 | 水曜日 | 午前10時30分～ |
| ○夕べの礼拝 | 第2、第4金曜日 | 午後 7時00分～ |
| ○入門講座 | 随時 | |

〒850-0854 長崎市銀屋町1-5 電話 095-823-0667

FAX 095-893-8662 (新しくなりました)

牧師：竹内款一 E-mail：ginyamachi-church@dream.jp

ホームページ <http://www.giocities.jp/ginyamachchurch/>

主日礼拝 次第

2019年3月17日 受難節〈レント〉第2主日

司式：今村 直 奏楽：西 眞弓
安川 徹

前	奏		奏楽者
○招	詞	詩編98編1節	司式者
○讚	詠	1-546	一同
○交	読	詩編140編2~14節	〃
		(旧約：p980)	
○使徒信条		(讚美歌添付)	〃
○主の祈り		(讚美歌添付)	〃
○讚美歌		472	〃
聖書		ルカによる福音書11章14~26節	
		(新約：p128)	司式者
祈	禱		〃
○讚美歌	教	377	一同
説		「強い力とは」	竹内款一牧師
祈	禱		〃
○讚美歌	金	475	一同
献			〃
○頌	栄	27	一同
○祝	禱		竹内款一牧師
後	奏		奏楽者
報	告		司式者

○の印がついた部分ではお立ちいただきますが、立つことの難しい方は座ったままで結構です。

★「讚詠1-546」、「頌栄27」
「使徒信条」、「主の祈り」などは、
座席に備え付けのものもあります。
ご覧ください。

★「交読」は、一節ずつ
司会者と会衆が、交互に
読みます。
最後の1節は全員で
読みます。

★「讚美歌」は、拡大したのもの
ございます。ご入用の方は
受付にお申し出ください。

★「補聴器」、「点字聖書」も
ございます。ご入用の方は
受付までお申し出ください。

★礼拝堂2階には、
フリースペースがあります。
こどもの遊び場、礼拝中の授
乳や、くつろぎの場としてお使
いいただけます。

★何か分からない事がありましたら、
お気軽に受付におたずねく
ださい。

◇◇◇ 予 告 ◇◇◇

3月24日(日) 礼拝後：「わかちあいランチ」、「シオンの集い」

4月7日(日)：聖餐式、聖歌隊奉仕、役員・CS教師就任式、役員会

今週の祈り

- ◎すべての人にキリストの恵みと平和がありますように。
- ◎東日本大震災をはじめ、様々な災害で被災された方々に慰めと平安を。
- ◎礼拝に出席できない方をおぼえて、主の恵みと平安を。

本日の教会学校

- ◇幼小科礼拝 (9:30～ 記念館 1F)
説教 竹内款一 奏楽 竹内貴子
- ◇中高科礼拝 (9:30～ 記念館 2F)
説教 奥野政元 奏楽 中尾恵美

本日の礼拝当番

森 富美 実藤容子 中尾恵美

本日の予定

- ◇ティータイム ◇聖歌隊練習
- ◇2019年度「長崎地区総会」14:30～
所：大村教会 森 富美さんと竹内牧師が議員として出席します。

次週〈3月24日〉教会学校

主日礼拝と合同です。

次週〈3月24日〉主日礼拝

【受難節[レント]第3主日】

説教：「隠されているものを見つめる」
竹内款一牧師

聖書：ルカによる福音書
9章18～27節

交読：詩編107編1～16節
讃美歌：18, 305, 481, 讃栄27

【司式】朝長佳子 【奏楽】安川 徹
【礼拝当番】

森 富美 井形和子 吉見真理

次週〈3月24日〉礼拝後の予定

- ◇ティータイム ◇聖歌隊練習
- ◇わかちあいランチ
「春のちらし寿司とお吸い物」
- ◇シオンの集い

今週の予定

◇聖書研究・祈祷会

3月20日(水) 10:30～12:00
ルカ福音書 18章9～17節
司会：実藤容子

◇金曜日夕べの礼拝

3月22日(金) 午後7時～
説教：「490回以上」
聖書：マタイ福音書 18:21～35
讃美歌：219, 298, 頌24

【牧師予定】

- ▶20日(水)…時津こぼと保育園聖書研究

報 告

◎2018年度臨時総会 報告

- ▶2019年度の宣教についての各議案、予算を承認。
- ▶2019年度標語
「あなたがたは地の塩である。」
- ▶2019年度年間聖句
「塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。」
- ▶役員選挙結果4名が選出されました。但し1名の辞退者があり、次点者が繰り上げとなり以下の4名が新役員となりました。(新役員)：大岩しのぶ、朝長佳子、直塚太郎、吉田香奈子 (五音順)

◎臨時役員会報告(総会后)

(総会付託事項)

- ① 長崎地区総会議員…森 富美
- ② 九州教区総会議員…今村 直
- ③ 会計監査委員…奥野政元、古賀貞夫
- ▶役員各役割
書記：奥野多津子、山住輝和
会計：西 眞弓(通常)、今村 直(特別)
朝長佳子(補)
礼典：吉田香奈子、朝長佳子
施設：大岩しのぶ、直塚太郎
社会・共育：吉田香奈子、西 眞弓

- ◎『信徒の友』(2019年度)購読の申込を受け付けています。
1冊：586円、年間購読料：7,032円
※申込窓口：販売部(大岩しのぶ)

◎《熊本・大分地震救援募金》

- ご協力をお願いいたします。
※2018年度累計：107,872円(3/10まで)
感謝をもって報告いたします。

主イエスは荒れ野に行き「誘惑」なるものに出会っている。けれども、荒れ野に置かれているにもかかわらず、主イエスは「解放」されていると私は見るのである。

通常、荒れ野は人が簡単に生きることができない場所だ。そこを通ることは、まさに試練であり命がけだ。でも、多くの人々がそこを旅してきたところでもある。聖書で言えば、エジプトで奴隷だった民が脱出し、通って来たところも荒れ野だ。また、バビロンによって滅ぼされ捕囚となった民は、時を経てもう一度エルサレムに戻る。その時も、荒れ野を通ったと言える。辿りついたエルサレムは数十年前に破壊され、いわば荒れ野だった。でも、そこから神の民は新たな歩みをはじめて行ったのだ。

さて、主イエスがサタンによってあった誘惑は、大きく分けて3つ。「石をパンに変えてみたらどうだ」、「自分(サタン)を拝んだら、栄華を享受できるようにしてやろう」、「神の子なら、高い所から飛び降りて見たらどうだ。守られるはずだ」。

空腹、飢えの問題は、切実である。今日や明日を生きられるかどうかは人にとって切実である。主イエスは、決してパンの問題を蔑ろにはしない。いつだって、主イエスはパンを分け合ったからだ。先週の五千人の共食もそうだ。あるいは、十字架を前にした時もパンを裂いて分けて食べた。復活された主もやはり、パンを裂いて分けて食べた。周りにいる弟子たち(ひいては私たちも含むのだが)、この人々が様々な状況にあって、悲しみも喜びもある様々な状況の中で、主イエスはパンを裂いて分け合った。それは、様々な状況にあるその人そのものを顧みて、尊んで、愛しているからである。

五千人の共食の時にも見たが、主イエスは何も魔法を駆使しているのではない。今回の場面では、いわば魔法のような力を駆使して石をパンに変えてみると、悪魔は言う。主イエスの心内を想像する。「確かにパンは大事だ。その通りだ。でもそのパンを分かち合うことの方が、もっと大事だ。私は、自分だけ助かるうとは思っていないのだよ」と。

そして「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」と答えた。この言葉は、申命記8章の言葉から由来する。神の民らがいいよ約束の地へと入る時、告げられた言葉だ。

神は民を救い、養い、導いた。だから最も大事なことは、神が人を生かそうとしている意思そのものである。「あなたは、神の意思がとも

なった存在である」。そこに、主イエスは踏みとどまった。誘惑の前には、主イエスにだって戸惑いがあるだろう。でもそれを斥ける時、主イエスは神に愛された者として、自由になるのであった。解放である。

次に悪魔は、イエスを高く引き上げて、一瞬にして世界のすべての国々を見せつけた。そして、権力・繁栄の一切切を与えてやろうと、話を持ちかける。しかし、それは悪魔を拝むことと引き換えであった。悪魔は、権力や繁栄など一切の支配力は、「わたしに任されていて、これと思う人にあたえることができるから」と言っているが、「そうではない」ことをイエスは明確にする。「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」(申命記6:13)との言葉を取り上げた。この世に支配があるとすれば、それは何なのか? 確かに人の支配が在って、権力者、統治者の支配がある。しかし真実に主であるのは神のみであるとあらわし、この誘惑を退けた。そして自由になるのである。解放である。

次に悪魔は、イエスをエルサレムの神殿のてっぺんに連れて来る。悪魔はそこから飛び降りることを勧める。神の子なら助けてもらえるだろうと誘う。極めて危険な誘惑である。主イエスは「あなたの神である主を試してはならない」と言って斥けた。確かにそうだと思う。神の業を「お試し程度」に軽んじてはならない。それと同時に、命の尊さを軽んじてはならない。ある場面を思い起こす。十字架の上の主イエスだ。ルカ23:35「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」、同37「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」と、浴びせられた罵声を思い起こす。神の業は「試み」になされない。「命がけ」である。また、同時に主イエスは人の命を尊び、失われることを善しとはしなかったが、最終的に本当に御自身の命を献げたのだということが、ヒシヒシと伝わって来る。ローマの百人隊長が、「本当に、この人は神の子だった」と言ったのが分かるのである。

主イエスが、宣教のはじめにあたり、これらの誘惑にあわれたこと、そしてそれらを退けた意味が分かるように思う。

主イエスが誘惑をしりぞけて、戸惑いをしりぞけ、解放され自由になり、ご自分の道を進んだことは、私たちに希望を与えうる。この方を主としていることによって、私たちは様々なとらわれを斥け、自由を得、そして主にある落ち着きを与えられるからである。